

平成29年度 大阪府立摂津支援学校 第2回 学校協議会 実施報告書

1. 日時 平成29年度10月30日(月) 10:00~12:00

2. 場所 本校 会議室(2階)

3. 出席者 <学校協議会委員>

西野 陽一(大阪工業大学) (学校協議会会長)

大矢 優子(摂津市教育委員会)

森 理子(吹田市子ども家庭センター)

福光 徒紫美(ダイキンサンライズ摂津)

増山 克己(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター)

水眞 龍次(高槻市柱本自治会)

宮脇 千恵(本校PTA役員)

<摂津支援学校>

校長(大峠) 教頭(川村) 事務長(洲本) 首席(中島・木村)

教務部長(坂部) 部主事(小野・平水・三牧)

<傍聴者>

4名(本校保護者)

4. 年間テーマ及び協議事項 「知的障がい支援学校としての本校の教育の現状と課題について」

① 本校教員研修の取り組みについて

② 防災への取り組みについて

③ 学校教育自己診断の実施について

④ いじめに関するアンケートの実施について

⑤ 来年度使用教科書について

5. 説明・質問・協議内容等

(1) はじめに

[進行: 首席] *配布資料説明

※高等部1・2年生が接客

・校長あいさつ

・会長あいさつ

(2) 学校より報告および協議

[進行: 会長 記録: 中学部主事]

① 本校教員研修の取り組みについて (研究・研修部長)

*資料をもとに平成29年度の校内研修について概要を説明した。

・ 検索研修については、学期に1回必ず行っていく。2学期は、8月28日に実施。3学期についても計画書には記載はないが、必ず行う予定である。

・ 性教育については、今年度より、昨年の反省や意見を受けて、学校全体として取り組んでいくことになり、8月に全体研修として外部講師を招いて研修をした。その中で、「知的発達の偏りのある少年の問題行動に対する支援方法」については、保護者参加型の研修として、教員、保護者と共に学ぶ機会を設けた。保護者からも、良かったなどのご意見をたくさんいただいたので、次年度も継続的に行っていきたいと考えている。

・ 人権研修については、人権問題対応委員会より、昨年度高等部で発生したいじめ事案の報告があった。

- ・3学期に、マイクロアグレッションという研修を予定している。マイクロアグレッションとは、知らないうちに、人を傷つけていたり、人種差別的な発言をしたりしていることがあるので、もう一度、自分の発言などを考え直してみようという研修。グループディスカッションもできたら良いと考えている。
- ・教職員実技研修については、夏季休業中に教員よりアンケートをとり、教員が講師となって実技研修を行った。
- ・初任者と10年経験者または、先輩教諭による授業見学は、今年度は10年経験者が1名、初任者が5名なので、4名の先輩教諭に校内で呼びかけ、対応してもらうことになっている。先輩の授業を見学し、質問等をする研修。
- ・公開授業週間については、昨年度に引き続き、年に2回（9月、2月）実施する。9月は教員向け、2月は外部にも公開する。授業見学者は、見学メモを記入し、授業者に、感想や意見が伝わるようにしている。昨年度はメモが授業者に戻せていないことがあったが、今年度は、増えてきている。今年度は、小学部：37、中学部：11、高等部：15 の返却数であった。
- ・学部研修については、平成30年度より、「特別の教科である道徳」が教科として設定されるので、小学部主事が小学部の教員を対象として研修を行った。
- ・これから、教員がどのような研修を求めているのかを確認し、研究・研修部で話し合い、企画していきたいと思う。

Q 委員： 探索研修とは、どんなことをするのか？

学校： 学校で行方不明の児童や生徒が出た場合の、教員の動きや本部での指示の確認などを行っている。また、マニュアルを確認し、動きに矛盾などがないようにしている。

Q 委員： 実際に学校外に出てしまったことはあるのか？

校長： 実際に学校外に出てしまったことは、数回ある。児童・生徒の障がい特性もあるかも知れないが、教員が目を離した隙にいなくなることがある。そういったことを見直したり、起こさないようにしたりする為に必要な研修と考えている。

会長： マニュアルの確認や生徒がいなくなったときの教員の動き方などを再度確認して欲しい。

委員： 実りがあって良いと思う。

Q 会長： P E C Sやロイロノートとは、どういったものか？

学校： P E C Sについては、ピクチャー・エクステンジ・コミュニケーション・カードの略。コミュニケーションに課題がある児童・生徒に向けてのコミュニケーションツール。主に、絵カードを用いて行う。また、ロイロノートは、IPadのアプリ。パワーポイントやkeynoteと同じで、動画や写真を用いて1つにまとめ流れを作っていけるアプリのこと。

委員： 「知的発達の偏りのある少年の問題行動に対する支援方法」の研修は、夏休みということもあり参加できなかった保護者がたくさんおられた。やはり、保護者も考えていかななくてはならない内容と思うので、PTAでも取り組んでいけたらと思っている。

Q 委員： 高等部では、性教育を熱心にされているが、思春期に入ることでは、中学部でも同じ。授業では行っているようだが、どんな取り組みをしているのか？ また、保護者からの相談は、どのようなものがあるか？

学校： 中学部では、学部全体での取り組みとして、外部講師による講義や各学年での取り組みとして、S S Tなどを行っている。個別に対応することもある。保護者からの相談としては、異性との距離感についての相談が多い。

Q 委員： スマートフォンやインターネットを使い、簡単に情報がたくさん入ってくるので、異性との距離感については、教員、保護者と共に考えなくてはならないと思う。授業では、どのように取り組んでいるのか？

学校：キャリアや情報などの教科、また、個別対応で、使い方を指導している。保護者にも、情報提供というところで、お知らせはしている。

Q 委員：様々な情報が入ってくるので、嫌な思いをしたり、知らず知らずに嫌な思いをさせていたりすることがあると思うがどのような対応をとっているのか？

校長：フィルターをかけたり、使い方をきちんと指導したりする必要があると考えている。昨年度の本校の事案で、個人情報を出る事案があった。スマートフォン等の利用は、保護者管理だと思うが、保護者が管理できないのであれば、卒業まで預かるケースもある。

② 防災への取り組みについて（ 首席 ）

*スライドを提示しながら、今年度の本校の防災について説明を行った。

・H25年度にとりかい高等支援と避難訓練（火災・地震）を実施

H27年度、個人備蓄品の管理スタート（教員、児童・生徒）

H28年度、防災マニュアルを教員に配布

H29年度、個人備蓄品で薬預かりスタート

（薬預かりについては、保護者より要望があったため）

・備蓄品の中身については、飲み物（500ml×2本）、タオル、食べ物（1泊できる量）。3階の備蓄倉庫にて、個人備蓄品と学校備蓄品を保管している。学校備蓄品に関しては、毛布や水、アルファ米、発電機など。寄付や学校で買い揃えたものである。

・Jアラート発信時に備えては、職員室にポスターを掲示し周知した。また、事務室ができるだけ早く、全校放送できるようにマニュアルを作成した。児童・生徒には、2学期の始業式の際に、各学部の実態に応じた形で、注意喚起をおこなった。実際に、Jアラートが発信された場合は、マニュアルに沿って、事務室が非常ベルを鳴らし、その後、全校放送を入れる。もし、校外にいる場合については、付き添い教員に速やかに連絡を取り、避難を呼びかける。また、5分ごとに放送で指示を送る。

・今年度、新たに引きつぎ訓練を実施する。大規模災害に備え、児童・生徒が安全に帰宅できるように教員、保護者が練習を行うものである。12月21日のとりかい高等支援との合同の地震津波避難訓練の後に実施予定である。この日は、給食は提供せず、持ってきている備蓄品を食べる。その後、引きつぎ訓練を開始する。基本的には、学校での引きつぎだが、学校の立地上交通の便が悪いので、通学バス、放課後デイによる引きつぎも了解している。

・引きつぎの方法に関しては、誰が迎えに来るのかを事前に6名程度登録してもらい、学校側がきちんと把握しておくことが必要だと思う。その為に、全保護者に、引きつぎカードを記入してもらい、現在、提出をお願いしている最中である。

・今回の引きつぎ訓練に関しては、大きな一歩であると考えている。本校は実際に、淀川に隣接している学校であり、また、津波被害が5メートルと出ている。津波だけではなく、他の災害に備える意味でもやはり、こういった訓練は必要だと考えている。

委員：この間の台風で、雨がすごかったので、他の保護者に「淀川が氾濫しなくてよかった」などと、言葉をかけたが、ピンときていない保護者もいる。もう一度、なぜ危険なのかを保護者に周知して欲しい。

校長：前回の台風でも、氾濫水位まであと数メートルのところまで来ていた。やはり、こういった状況が出てくるので、保護者には再度、危険だと認識してもらう必要がある。

Q 委員：摂津支援は、通学範囲も広く、吹田に住んでいる保護者に関しては、あまり雨を意識していない人が多い。氾濫している写真などを撮って見せてみてはどうか？

校長：写真を撮るなどして、周知の対応も考えていかなければならない。

委員：引きつぎ訓練は、とても良い取り組みだと思う。大阪府内で取り組んでいる学校もあるので、是非、連絡を取り合って情報を交換して欲しいと思う。

委員：地震や大雨など、色々な災害のほか、何にでも対応できるので、引きつぎ訓練は大切だと思う。現在、自分の会社でも、病気や怪我などで、保護者に連絡をとることがあるが、緊急連絡先に家の固定電話を記入されていたり、携帯電話を記入されていても、会社の番号を登録されていなかったりして、電話に出られないことが多々ある。保護者に連絡がつくのが夜の8時過ぎになってしまったことがある。

校長：学校でも、保護者に連絡をすることがたくさんあるが、携帯の番号を書かれていても、仕事で携帯の電源を切っている人もいる。緊急の場合は、校長判断で病院に搬送することもある。引きつぎ訓練に関しては、はじめての訓練なので、いろいろと課題もあると思う。例えば、実際には教員は、自分の子どもの引きつぎにはいけない。地方公務員なので、学校が優先である。そういったことも含めて、考えておかなければならない。防災については、外部講師の話をPTAにしてもらって、防災について考えてもらっても良いかと思う。

委員：外部講師の話は、良いと思う。ただ、講師料との兼ね合いがある。通学バスや自家用車が動かないときのことも想定しないといけない。

会長：12月に実施して、どうだったのかを第3回で、報告してほしい。

③ 学校教育自己診断について（首席）

・今回の実施にあたり、教育委員会からの通達があり、質問項目が追加されている。いじめに関する項目で、教員用、児童・生徒用、保護者向けにそれぞれ追加されている。協議会の承認を経て、11月の中旬より実施する予定である。結果は、第3回学校協議会で報告する。

Q委員：学校教育自己診断は、一般校も含めてするのか？

校長：大阪府は、どの学校も行っている。

校長：この学校教育自己診断は、いじめなどの事案を学校現場で対応しきれいなくなったり、発見できていなかったりするので、文科省より通達があつて、子どもたちのSOSを拾うために、学校自己診断を行っている。また、いじめに関しては、いじめが原因で30日以上欠席が続く場合、知事まで報告することになっている。

Q委員：30日以上休む理由が病欠と言いつつ続くときは？

校長：本校では、3日休むと家庭訪問を行っている。また、無断で欠席した場合は、その日に必ず、電話連絡をしている。そういった対応は、いじめだけではなく、虐待などの事案も含んでいるので、とりあえず、生徒の顔を見て、安心を得るほうが先かと思いつつ対応している。

委員：摂津市なら、パルという相談センターもあるので、是非活用して欲しい。

委員：いじめなのか、生徒自身の被害妄想なのかをはっきりさせて欲しい。

④ いじめに関するアンケートについて（首席）

・支援教育課の指示により、アンケートを実施する。本校での窓口は、人権問題対応委員会。対象は、全児童・生徒。また、長期欠席が続いている場合は、家庭訪問や、面談などで聞き取りを行う。生徒自身が記入し、記入できない児童・生徒については、家庭に持ち帰り、保護者に記入してもらう。アンケートに関しては、原則記名式で行う。どうしても記名できない場合は、無記名でも対応する。アンケート回収後、いじめ事案と思われるものがある場合は、人権問題対応委員会に対応していく。

委員：いじめを受けていても理解できない児童・生徒がいるので、アンケートを取る際は、質問をより具体化にして行うことが必要。例えば、「いやなことやあぶないこと」など言葉だけで

はわからないので、必ず、具体的に例などを挙げて、説明して欲しい。また、フラッシュバックする児童・生徒もいるので、トラウマにならないように気をつけて欲しい。

⑤ 来年度使用の教科書について（ 教務部長 ）

- ・小学部では、2～3割の変更がある。変更は、学年によって違う。児童の実態に合わせたものや、9条本から外れたものがあり、別のものを選定している。
- ・来年度より、「特別な教科：道徳」が教科として時間割に入るが、本校では、来年度は、教員の手作り教材で対応する。2年目より、児童の実態に合わせて9条本より選定することも検討する。
- ・中学部においても、1年生の国語のA・Bグループでは、生徒の実態に合わせて、通年の使用としている。また、体験や経験を通して学習できるものを選定している。
- ・高等部においては、「ワーク」の授業では実践的な指導やパワーポイントを使い、教科書を使用しない方向で指導しているため、教科書を減らしている。

◎全体を通しての質問

Q 委員：摂津支援学校は、一時避難場所になっているが大阪府で設定しているのか？

校長：大阪府ではなく、市町村で設定している。本校は、摂津市と協定を結んでいる。摂津市と結んでいるが、高槻の柱本の地域の方が避難されても大丈夫。避難場所は、体育館。ただし、一時避難場所なので、行政からの備蓄品はない。

Q 委員：生徒にはあるが、一般市民にはない？

校長：一時避難場所なので、基本的にない。しかし、避難されてきた場合に何も提供できないのでは、困るので、これを機に、自治会の方から高槻市や摂津市に声をあげて欲しい。また、備蓄倉庫は、3階くらいの高さのところが望ましいと思っている。

会長：摂津市との協定というところで、高槻市の方が避難してくると備蓄品の提供がどうなるかわからないので、ぜひとも、高槻市と話を進めていく方がよい。

(6) まとめ

・校長より

校長：今回もいろいろなお意見をいただき、ありがたいと思っている。また、いじめの問題などいろいろあるが、早急に対応しなくてはならないこともたくさんある。

・会長より

会長：早めに対応してもらうことが大切だと思う。また、アンケートの結果など第3回で報告して欲しい。引きつぎ訓練なども、今回はじめての試みなので、たくさんの課題も見つかると思う。これも、また次回に報告して欲しいと思う。

(7) 事務局より諸連絡（ 首席 ）

- ・次回は、2月上旬を予定している。

【配布資料一覧】

- ①次第
- ②学校協議会名簿
- ③本校教員研修の取組みについての資料
- ④防災への取り組み資料
- ⑤学校教育自己診断資料
- ⑥来年度使用教科書資料
- ⑦いじめに関するアンケート資料